（別紙4）　　令和　元　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2393100074		
法人名	学校法人さくら学園		
事業所名	グループホームじけい　朝日		
所在地	安城市西別所町中新田20		
自己評価作成日	2020年2月1日	評価結果市町村受理日	令和2年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393100074-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者と家族の距離が離れない様に、月に一度家族の方が集まれるようにしている事。地域との交流がある（掃除、サロン、お祭り、避難訓練など）。保育園、幼稚園、学校との交流がある。料理、洗濯など家事を積極的に入居者と行っている。看取りを行っており、その点もオープンにしている。地域の行事に積極的に参加し、地域に受け入れてもらうことで協力体制がとれるようになった。入居者に寄り添い想いを汲み取る事を、スタッフの共通の想いで支援している。日常の中に四季を感じられる様な外出を多々行っている。なるべく一人一人のペースで生活して頂ける様心にゆとりを持ち接する。出来る事は出来るだけゆっくりでも支援し継続して行ける様努めている。声掛けや丁寧な言葉遣いが出来る様努力し、安心して日々を過ごして頂ける様努力している。日課を作って生活するのではなく、出来るだけ家族的な雰囲気で、その時その時の入居者の方に合わせながら生活している。行事が多くある。神社、田、畑があり、自然に恵まれた環境の中で四季折々の変化を感じられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの基本理念である「慈愛（じあい）・誠心（まごころ）・共生（ともいき）」のもと、利用者がホームの中心と考えながら、職員間で定期的及び随時の検討を重ね、一人ひとりに寄り添った支援が行われている。ホームは、地域の方との交流に積極的な取り組みが行われており、地域で行われている様々な活動にホームから参加したり、発表会に練習に公民館を借りたり、毎月行われている喫茶「じけい喫茶」を通じた交流が行われている。地域の方とは、ホームで行われている災害訓練の際にも、多くの地域の方との参加が得られており、地域の方との相互の協力関係が築かれている。また、家族との交流についても、開設以来、毎月の大掃除の取り組みを継続しており、大掃除の活動の終了後には利用者と一緒に食事を行う時間を設けており、家族にホームを知ってもらう働きかけが行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念（慈愛・誠心・共生）を事務所に掲げ共有している 地域の一員として生活し、保育園、幼稚園児との関り、学生との関りで、世代を超えた持てて生活出来ている 町内の行事に参加している	理念をホーム内に掲示しており、日常の支援を通じて職員が理念を意識する働きかけが行われている。また、理念の中の「共生（ともいき）」については、ホーム開設時に運営法人の基本理念でもある「慈愛・誠心」に付け加えており、利用者と一緒に生活することを目指した内容となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月の神社の掃除やお参りの参加、毎月のじけい喫茶へのお誘いなどで交流できており、地域行事への参加も積極的に行っている 神社掃除、しいの木サロン、ラジオ体操、もちつき、お祭りなど町内会行事への参加 買い物や、散歩中、町内の方と声を掛け合っている 町内の友人との昔からの付き合いも大切にしている 幼稚園、保育園とも交流がある 町内のボランティア受け入れや、町内の踊りや音楽の発表の場としても活用してもらっている	地域の方との積極的な交流が行われており、ホームの前に神社がある利点を活かして、神社で祭事が行われる際には、ホームからも利用者と参加して交流の機会をつくっている。地域で定期的に行われているサロン（しいの木サロン）に参加したり、ホームでも毎月行われている喫茶（じけい喫茶）に地域の方が参加する交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症思いやり企業のステッカー事業への応募や、ケーブルテレビの取材放送で認知症の理解を深める努力をしている 町内の方にも施設行事や、避難訓練に参加してもらい、関りを通し理解を深めている 学生向けに認知症に関する理解を深める為の講義（認知症サポーター養成講座）を行った 実習生やボランティア受け入れを通して 地域行事に参加し、入居者さんと関り、顔見知りになって、関係を築きながら理解してもらっている 運営推進会議で状況の説明を細かく行っている 開設時、地域の方を招いて、認知症の理解を深めるための劇を行った		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	多くのご家族が参加出来る日曜日にも開催し、多くの意見を集め、改善、向上できる様努力している 利用者の方も会議に参加し意見を発表している地域の方からのアドバイスを議事録を通してスタッフ全員が共有し、サービス向上の参考にしている 町内の方のご要望をお聞きしたり、ヒヤリや事故に対してのご意見などあれば参考にしている	会議の際には、ホームからの詳しい運営状況が報告されており、出席者にホームの現状、取り組みを知ってもらう働きかけが行われている。また、会議を通じて、家族との交流会を開催したり地域の方が参加した避難訓練を実施する取り組みも行われており、ホームの運営への反映につなげている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	グループホーム部会に参加している 運営推進会議に参加して頂き現状を細かく伝えている 市の事業（七夕まつりステージ参加　認知症思いやり企業ステッカー）に参加している 認知症思いやり企業のステッカーに、入居者さんの作品が選ばれ、授賞式にも参加した 不明な事などは市の担当者に質問している 市の介護相談員さんの受け入れ	市内のグループホームが集まる連絡会にホームからも参加しており、研修会等と合わせて、情報交換の機会につなげている。市で行われている行事にホームからも利用者と踊りの発表会で参加しており、市の福祉施策の協力が行われている。また、毎月の介護相談員を通じた情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に1回勉強会を行っている（扉の施錠・言葉の抑制なども含め） 毎月のスタッフ会議にて、抑制拘束適正委員会の報告を行っている 毎月全員で拘束以外のケアの仕方の事例検討勉強会を行っている センサーマットの使用 帰宅願望が強い方には、外に出る機会を作り精神安定に努める	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内は開放的な空間をつくり、利用者に寄り添った支援に取り組んでいる。また、毎月の会議の際には、専門の委員会通じた身体拘束に関する現状確認が行われており、事例検討と合わせて、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	入浴時の身体チェックや、ヒヤリ事故報告などで身体の異常に気を付ける体制を作っている スタッフ同士声の掛けやすい環境づくり、無理のない介入の指導を行っている スタッフの勉強会を行い、どんなことが虐待につながるかを学んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じ活用するようにしている。現在は活用してみえる方は居ない。 今の所学ぶ機会は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、また、制度改正時は個別に時間を作り説明や話をするようにしている。 ケアプランの見直しは、家族とご本人の要望を聞き話し合い、又その結果をプランに反映させ報告も行っている。 必要に応じ個別の面談も行っている。 何か質問があれば聞きやすい雰囲気づくりに努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議へのご参加を全家族、また、参加可能な入居さ様に促している。 参加が難しいご家族の為に毎回アンケート用紙を送っている。 年一回、ご家族が参加しやすいに日曜日に運営推進会議を開催し、またその会議には市役所、地域包括職員、民生委員、町内会長さんも参加して下さる。 最低3か月に1回はご家族にケアに対するご希望をお伺いしている。 毎月1回行われる大掃除後の食事会で、ご家族、ご本人のお話を聞く機会を作っている。 苦情・要望書があり、ご家族や入居者様から頂いた苦情・要望は書面に残し対応するようにしている。 月1回の大掃除、父の日、母の日、誕生会、忘年会、敬老会などの行事への参加率が高く、お話をお伺いする機会が多い。	毎月の大掃除の取り組みが行われており、家族にも参加を呼びかけながら交流の機会をつくっている。運営推進会議の案内文書にアンケート欄を設けており、定期的に要望等を把握する取り組みが行われている。また、毎月のホーム便りの他にも、3か月に1回の担当職員による便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議や、年2回の本部からのアンケートで意見が出せるようになっている。 会議に参加出来ないパートさんは、メールで意見を出せるようになっている。 普段からも相談しやすい環境になっている。 補助簿に意見を聞くページを設けている。 必要に応じ面談などを行い要望を伝える機会がある。	毎月の職員会議が行われている他にも、日常的にも職員間で情報交換が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、運営法人からも年2回の職員アンケートを実施しており、職員からの意見や要望等の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年3回、スタッフ自身の自己評価やアピールしたい点などを記入し、スタッフ個々が評価されるようになっている。 パートの時間を個々に聞き入れ働きやすい環境に努めている。 特別処遇改善加算取得等で整備に努めている。 希望休が出せるようになっている。 スタッフの子供も一緒に来て仕事している事もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修が充実している 市主催の研修会に参加する事もある スタッフが講師になり勉強会を開催している 年間の教育訓練計画書や新人の教育チェック表が作られマニュアル化している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	安城市内のグループホームが参加するグループホーム部会での活動を通して交流の場がある 他グループホームとの会議の記録は議事録で他スタッフに回覧され、情報が共有できるようになっている 他グループホームとの会議、福祉まつりへの参加、他事業所の行事へ参加するなどしている 他施設へ入居者さんが慰問に行ったり、また、他グループホームの入居者さんがじけい喫茶に遊びに来ることもある		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にじけい喫茶などの行事へ参加のお誘いをしたり、入居体験などを行うなどして、事前に関係を築く様取り組んでいる。 入居申し込み時や、事前調査時にご家族やご本人、利用しているサービス事業所から情報を得るようにし、安心して頂ける対応が出来るように心掛けている。 これまでの生活歴を尊重しながら関わっている。 コミュニケーションを大切にし、常に寄り添い話に耳を傾ける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込み時や、事前面接時にお話を伺うようにしている。 最低3か月に1回のケアプラン作り直し時にご家族から気になる事やご要望をお伺いするようにしている。 入居後は細目な連絡をし、じけいでの暮らしぶりを知って頂く様にしている。 入居前から、じけい喫茶や行事への参加をお誘いし、お越しの際はお話を伺うなどして、困っている事が相談しやすい環境づくりをしている。 入居後もご家族参加の行事が多数あり関りも多く、良好な関係を築いている。 要望に傾聴し、そうでない事でも気軽に話せる関係を築ける様努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	じけいの申し込みにみえた方でも、場合によっては他グループホームのご紹介や、他福祉サービスの内容を説明したりしている。 定期的にサービスの見直しを行い家族、本人の話を聞いている。サービスの内容はスタッフ全員、場合によって主治医の意見も聞き検討する。 じけい入居前に他福祉サービスをご利用の場合は、そこから情報を頂いたりしてニーズの把握に役立てている 必要に応じて訪問マッサージや福祉用具の紹介も行っている 言葉にできない入居者の方のニーズを見極める為にも、1人のスタッフでサービスを決定するのではなく、多くのスタッフで多角的に見て検討するようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	料理、洗濯、掃除などを、個々の出来る事に合わせて一緒に行っている。 自分の事はなるべく自分で出来るように支援している なるべくご本人の得意（料理・歌・踊り）を活かして、主役として輝ける機会が出来るようにしている。 他施設へ入居者さんが慰問する側になって歌いに行く事もある。 時に入居者に頼る部分も作りながら関係を築いている。 料理を教わったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1度家族の方と大掃除を行い、一緒に本人の部屋を片付けて頂いたり、又、その後一緒に食事をする事で入居者さんの様子を家族にも実際関わりながら知って頂いている ケアプランの作成時はご家族にも意見を出して頂いている 細目に家族に連絡を取り、状況を共有しながら支援方法を考えている 大掃除で、家族も一緒にじけいを掃除して頂く事で、じけいが、入居者さん本人だけでなく、ご家族にとっても居心地よい場所となる様に考えている 誕生日会、敬老会、父の日、母の日、忘年会など、家族も一緒に盛り上げて頂く行事が多数ある		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	通いなれた理容室の利用や、地元の行事への参加など、地域との関係づくりをしている じけい喫茶など、オープンな環境を作り、地域とのつながりを大切にしている 地域のスーパーへ行き買い物をしている 馴染みの方々もいつでも面会に来れる環境づくり ご家族の協力で、自宅へ行ったり墓参りに行ったりされる 手紙の支援をしたりする	利用者の意向にも合わせながら、利用者の身内の方にプレゼントを持って行く方や、家族の協力も得ながら行きつけの美容院を継続している方等、馴染みの方との交流にもつながっている。また、家族との外出も行われており、行きつけの場所へ出かけたり、旅行に出かけて家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆で出掛ける行事、一緒に行うレク、体操、家事などで入居者さん同士親睦を深める機会がある。 スタッフが間に入り支援する事もある 入居者同士の相性を見極めながら、同じ空間をトラブルなく過ごせるような座席や家事への介入を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去の際、他福祉サービスの紹介を行い、情報提供を行った。 サービス終了後もじけいに顔を出して下さる方もみえた 他施設へ移動後も面会に行くなど交流を持つ様にしている 移動先の施設で困らぬ様に情報提供を行った お亡くなりになった方のご家族へ、これまでのグループホームでの生活を振り返り写真をお送りした		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	最低3か月に1回行われるサービス担当者会議でご本人、ご家族の意向、希望をお聞きするようにしている。 ご本人が訴えれない方の希望は表情や、生活歴などから想いを皆で推察するようにしている 普段の言動や会話から気持ちを汲み、喜んで頂ける様に支援している 体調に合わせた生活リズムで過ごして頂く様にしている	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者に関する意向等の把握が行われている。毎月の会議を通じた利用者全員の現状の確認が行われており、職員が把握した利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴の確認をしている 事前調査で関係各位からの情報を収集している 家具など、家族に協力して頂き使い慣れた物、馴染みの物を持って来てもらうようにしている 聞ける方には日々の会話から聞き出す様にしている 得た情報は記録に残しスタッフ皆で共有し支援に活かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り、24Hシートなどで生活の様子を把握し共有している 定期的な受診と、年に1度健康診断を受け身体状況を把握している ご本人の活動に、すぐに介助してしまわず、自力で出来る事を見守る事で有する力の把握をしている ゴミ捨て、散歩、買い物、外出等の活動機会に出来る事を見極める スタッフミーティングなど活用し、多角的な視点で状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の要望、介護者から見た課題を話し合い介護計画を作成している 多角的な視点で状況把握が出来るように会議時スタッフ全員で計画の見直しを行っている 状態変化があった時はすぐに見直しを行っている ご本人の昔の様子や色々なお話が聞ける様、ご家族と良好な関係を築き、食事会や面会時に伺うようにしている	介護計画は3か月での見直しが行われており、見直しに合わせて実施する担当者会議の際には、職員から意見や気付き等を出してもらい、職員全員の意見等を反映する取り組みが行われている。また、独自の「24時間支援シート」に介護計画に関するチェック記録を残し、定期的なモニタリングにつなげている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24Hシートに日々の情報を個別に記録し共有し、ユニット会議で課題を話し合い改善できるように取り組んでいる。また、会議での検討内容も個別に記録している。 体調変化は赤ペンで記入し目立つように工夫している。 特に重要な事は記録+口頭で申し送りを行っている。 ケアプランの進行状況は24Hシートのチェック表で把握できるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々の課題を家族に連絡し相談している。個々の能力に応じた過ごし方が出来る様支援している 訪問マッサージや福祉用具貸与などのサービスも必要に応じ紹介し活用している 終末期に入った方の医療（医師・訪問看護）との連携 看取りの方との関りを増やす為写真コンテストの開催 生まれ故郷の物が食べたい方への取り組み 多くの外出や行事を企画し、楽しんで頂く様にしている 町内との関りを増やす為に町内の様々なイベント（七夕、サロン、お祭り、ラジオ体操など）に参加している 子供が好きな方が子供と関われる様に保育園幼稚園と交流がある		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所の方が絵手紙、習字クラブのボランティアに来てくれる 地域の演芸、歌や踊りのが得意な方々、クラブ活動をしている方々がボランティアで歌、踊り、三河万歳など披露しに来てくれる 町内の方に協力して頂き防災訓練を実施している事で、非常時安心感がある 町内の学生がボランティアに来てくれる 町内会との積極的な関りがあり、町内行事に多く参加し楽しい豊かな時間を過ごしている 町内の民謡クラブに参加し、発表会の機会があり、踊りや歌の力を発揮している 町内の作品展に作品を出展し、作品作りの力を発揮している 運営推進会議で、2か月に1回市役所、地域包括、福祉センターとの関りがあり、困った事は相談できる関係を築いている 町内の神社掃除に参加し力を発揮している 地域で採れた食材を使用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人家族が希望する医療危険への受診対応している 緊急時搬送病院を各自お聞きしている ホームの協力病院の医師の往診も対応している 協力病院の医師と、心配事があった時すぐに相談できる関係を築いている、また、緊急時は夜間も往診に来てくれる 協力病院以外の受診も多く対応している	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の利用者が協力医をかかりつけ医としている。受診については、ホームでも支援が行われており、家族との情報交換が行われている。また、常勤の看護師が勤務しており、協力医との連携や日常的な医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	情報共有している 24時間オンコールで、いつでも対応できる体制になっている 怪我や体調不良時は連絡し対応している じけいの看護師と協力機関の看護師と記録を使って情報共有している LINEの写真送付などを使って情報が送れる 看護師による勉強会も実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働	入院時病院に情報提供を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院に情報提供を行っている 入院中お見舞いに行く様にしている、また、お見舞いに行ったスタッフの情報を会議などで共有している 入院中の状態を病院、または家族から聞き近況を把握するようにしている 退院前に病院スタッフと、家族、じけいスタッフと、協力病院医師と、必要に応じ訪問看護さんと退院カンファレンスを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	【重度化した場合の対応に係る指針】の書類が作成されており、入居時説明するようにしている。 また、入居時ご本人または家族の急変時の希望、終末期に入った時の希望をお聞きするようにしている 実際終末期に入った時は、家族、医師を交えカンファレンスを行い、再度ご希望の確認とじけいで出来る事を説明するようにしている カンファレンスを行い、その方の看取りに関する指針が決まると、カンファレンスの記録の回覧や会議を使って全スタッフに共有するようにしている 実際、医師、訪問看護と連携し支援する事で、看取りと言われ、経口摂取禁止と言われた方が点滴不要となり、水分を経口摂取できるまでになった 看取りに入った時は、ご本人、またはそのご家族に同意を得た上で、他入居者とそのご家族にも看取りに入った事を説明し、ご理解ご協力が得られるようにしている 終末期ケアについての知識を深める為に勉強会を行い心構えと知識を身につけている	身体状態が重い方もホームでの生活を継続が行われている。ホームでの看取り支援も行われており、ホームでできる限りの支援や利用者や家族との思い出作りの取り組みが行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを深めながら、特養等の次の生活場所への移行も含めて、利用者や家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルがあり、いつでも見れるようになっている。 また年1回マニュアルの見直しを行っている 2か月に1回看護師による勉強会を実施し実践力を身につけている AED使用の訓練、心マッサージの訓練、誤嚥時の訓練を人形を使って訓練を行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回以上避難訓練を行っている 年に1回、地域の方にも協力して頂き避難訓練を行っている、その時地域の方にも車椅子の押し方や操作方法を説明している 地域の避難訓練にも参加している 災害時のマニュアルがある 備蓄品もある	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。地域で行われている災害訓練にホームからも参加したり、ホームで行われている避難訓練に地域の方が参加する等、相互の協力関係に取り組んでいる。また、水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームでは、災害対策に対する積極的な取り組みが行われているが、長時間の停電時の対応等、他の地域で起きた災害も含め、様々な災害も想定しながら、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ案内を周囲の方々に知られないような案内の仕方で行う 入居者さんを尊重した言葉がけを行っている お礼を言い感謝を伝えている 接遇マナーや、認知症の勉強を行っている 気になった事は会議で話し合っている 個々の経歴や経過、状態を把握し対応している 一人一人に合った声掛けを心掛けている 意欲を引き出せるよう声掛けをしている	ホームの年度の目標の中に、利用者への対応に関する内容も盛り込まれてあり、職員への注意喚起等の機会にもつなげている。理念に掲げている「慈愛・誠心」を支援の基本に考えながら、利用者への対応を意識する支援が行われている。また、職員の接遇にもつながる職員研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ケアプランを見直しの際には、必ずご本人からのご要望をお聞きするようにしている。生まれ故郷の物が食べたいとか、○○に行きたいなどの要望が出る事がある。 日頃の会話も自己決定して頂けるような声掛けに努めている 無理強いの支援はせず拒否も出来る環境を大切にしている 表情や日頃の様子から想いを読み取る 服やおやつなどを、いくつか選択肢を出し選んでもらっている 今日何がしたいか？入居者さんと予定を決められるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気が乗らない時は時間を空けたりして、気持ちよく生活出来るようにしている 一人一人のペースを知り本人のペースに沿った支援が出来るようにしている 睡眠時間、寝る時間起きる時間は個人のタイミングに合わせている どの様な過ごし方だと楽しみが持てるか考えている 出来る事を継続できるように支援している 本人が話せない時は状態などから予測しどうしたいか推察し安心して生活出来る様支援している 歌を歌ったり、天気が良ければ外に出たりしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分が着たい服を自身で選んで買いに行ったりする 家族が用意してくれた衣類を、同じ服ばかり着る事が無い様に支援している 衣類の消耗やほころびを発見したら、ご家族と相談し対応している 部屋から出る際は髪や衣類の乱れを治す 外出時お化粧をする事もある ご自分で着る衣類が決めれる方は自分で選んでもらっている 訪問美容の利用や、行きつけの美容院へ行く方もみえる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けは一人一人の能力に合わせ包丁を使って野菜を切ったり、混ぜたり、森分けたり、入居者さんも一緒に行っている ケアプランに好みの物を食べたいと希望し、食べる方もみえる 個々の飲み込み力に合わせ、刻んだりミキサーにしたり、食べが悪くなった方には好みを情報共有し食べれるように工夫している 季節感を出す食事や行事食、外食も行っている	食事については、食材業者のメニューも活用しながら、職員が利用者に合わせた対応も行われて調理が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。家族の協力も得ながら、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、食事の際には職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月に1回から2回体重測定を行い、適正な体重に近づける様、無理のない範囲で料などを調節している 24Hシートで食事水分量を記入し把握している 1日のトータル水分量1000mlが不足しない様把握し、水分摂取を促す様にしている 食事形態を刻みやミキサー、トロミ付きなど対応している 必要に応じ栄養補助職を提供している 適切な温度と形態で提供している 毎月5の付く日には食事の写真（朝昼夕）を取り栄養士に栄養バランスのチェックをしてもらっている その方の気分に合わせて、フロア以外で水分を勧める事もある 塩分を補う必要が有る方には毎食梅干しを付けたりした		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床、毎食後口腔ケアを行っている 定期的に歯科受診し検診を受ける方もみえる 個々の口腔状態に合わせケアの方法や道具を変えている（歯間ブラシ、スポンジブラシ、歯磨きティッシュ、ジェル、うるおいミスト） 歯科衛生士さんに助言をもらう事もある 入れ歯の付け忘れが無いかチェックをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	オムツ使用の寝たきりの方も排便はトイレに座ったりする支援を行っている ソワソワしていたらトイレ誘導を行う 退院時オムツだった方がオムツが外せ、失禁も無くなり、普通のパンツになった方もみえる 24Hシートを使い排尿パターンを把握している 内服中の薬を把握しながら使用する物や関りを変えている 排尿が多い方には誘導の回数を増やしトイレで行えるようにしている	個人記録用紙でもある「24時間支援シート」に排泄に関する記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、利用者に合わせた支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄が困難な方もトイレで排泄できるように職員2名での支援も行われている。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘に関する勉強会を実施した 朝食にヨーグルトを付けている 便秘解消の食材を食べるように心掛けている お腹の具合に合わせ牛乳や豆乳など提供するものを変えている 便秘解消の為歩いたり、お腹のマッサージをしたり、飲み物を多めに飲んで頂いたりしている 医師への相談、薬の調節		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	希望に沿える様に無理強いせず時間に幅を持たせて対応している 自分で決めれる方には何時ごろ入りたいか聞いて対応する 汚れた時には臨機応変に入浴して頂いたりしている 浴槽内でマッサージをしたりする 滑り止めマット、椅子、リフトなど、安全に入浴できるための道具を揃えている 入りたくなるような言葉がけの工夫をしている	利用者が週2～3回の入浴ができるように、ホームでは毎日の入浴に準備が行われており、利用者の状況等に合わせた支援が行われている。朝日ユニットの浴室には天井走行型のリフトが設置されてあり、身体状態の重い方の入浴にも対応している。また、ユニットにより、浴室や浴槽の構造が異なっている利点も活かしながら、利用者の身体状態等に合わせた入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせ、昼寝の時間を設けるなどしている 入眠しやすい環境づくり 季節ごとの状況を考えて支援している（寝具・湿度・温度・衣類） 眠れない方には気分を変える言葉がけ、添い寝したりする 日光浴で安眠を促す工夫		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の一覧、薬の目的や副作用、用法や容量が書かれた書類がいつでも見れるようになっている 薬の変更により症状変化があれば記録に残し申し送り、医師に相談できる体制になっている 薬の変更は書類と申し送りにて周知されている 誤薬が無い様にトリプルチェックを行っている 服薬後は、ちゃんと飲み込めたか確認するようにしている 利尿剤を飲んだ方は、効果をみるため体重測定を行う 薬に関する勉強会を行った 薬剤師からの薬剤情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日のレクリエーションの時間や毎月季節を感じる行事、日々の会話を楽しんで頂ける様にしている それぞれが得意な事（花を育てる、裁縫、料理、掃除、買い物）を活かし、好きな事を役割にし、活躍できるように支援している 外出の機会を多く取り入れ気分転換が出来る様にしている 入居前に生活歴や特技、趣味などお聞きし、今でも出来そうな事は行う機会を作ったりする ワインが好きで飲んでみえる方もみえた 懐かしいメロディーを流し歌ったりする 団体が苦手な方には個別に体を動かしたりする機会を作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ケアプランに本人からの希望で行きたい場所を取り入れ実施する事もある 花見や、花火見物、フラワーパーク、外食、猫カフェ、芋ほり、幼稚園、発表会、運動会、七夕、お祭りなど 買い物やゴミ捨て、散歩など毎日出掛ける機会を作っている 地域の行事に積極的に参加している ご家族と墓参りに行ったり、外泊のお出かけをした方もみえる	ホームでは、日常的に利用者が外出する機会がつくられており、その日の状況や天候等にも合わせながら日常的な外出の機会がつくられている。踊りの練習の際には、夜間に公民館を借りて出かける等、独自の取り組みが行われている。また、季節に合わせた外出行事の取り組みや、利用者の意向に合わせた個別の外出支援も取り組みも行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物で支払いをしてもらう事もある 自身の欲しい物をお小遣いで購入してもらう事もある ご自身で財布を管理したい方で、ご家族に了承を得て持って見える方も居た 買い物時値段を見て買うか？一緒に考える事がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話をする 全員が家族に手書きの年賀状を出している LINEで動画メッセージを送る事もある 交換日記をしている方もみえる 自身で携帯を持って見える方も居た		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に自然な光が差し込む様に大きな窓、天窓がある オープンキッチンで料理の様子が見え、また臭いもする 浴室リビング床暖完備 庭が眺められる造りのお風呂 居室入口には一人一人の表札がある 壁には季節を感じられる入居者さんの作品や写真がある 地域の方に頂いた季節の花が飾ってあったりする 毎食後入居者さんも一緒に掃除をしている 音楽をかけている日もある 畳スペースを活用するとプライベート空間が作れる 季節ごとの空調、加湿器の使用 心地よく暮らせる色遣いや温度の共用スペース 自分の家から持ち込んだ家具を使っていたりする 自身の部屋には家族と映った写真が飾ってあったりする	ホーム内はユニットによる構造が異なっているが、両ユニットとも木のぬくもりを活かした落ち着きのある空間となっている。天井も高いことで、採光に優れ、利用者がゆったりと明るい雰囲気で過ごしている。また、リビングや通路の壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われてあり、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者さんの人間関係を把握し、気の合う者同士を配慮した食事の席配置を考えている 食事の席以外ソファーがある TVを見る場所、気の合う方の話す場所、1人になれる居室がある 畳スペースを活用するとプライベート空間が作れる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月1回ご家族を招いた大掃除があり、家族と本人が居室を掃除し、過ごしやすい空間を作っている。毎月多くの家族が参加して下さっている。 茶碗が割れたりしたら、なるべく本人が買い物に行き気に入った物を買って来るようにしている 家具や茶碗など、元々家にあった物や、本人の見慣れた物を持って来て頂いている 遺骨、仏壇を置いてみえる方も居る 家族との写真、思い出の品など置いている	居室には、利用者や家族に意向等にも合わせながら、使い慣れた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室には畳が敷いてあり、和風の空間となっていることで、ベッド以外に布団を敷いて生活している方等、利用者にとって馴染みやすい生活環境にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	時計が入居者さんから見やすい所に付いている 表札があり自室、トイレが分かりやすい 床の素材が木なので、転倒してもショックが小さい 出来る事を見つけ維持出来るように支援している 日にちが分かる日めくりカレンダー 廊下に休憩スペースがある、また収納棚兼手すりがある 個々のADLに合わせた椅子が使用出来る様、各種ある 段差のないバリアフリー ベッドセンサー使用 トイレ浴室にナースコール 広いキッチンで、入居者さんと調理ができる		